

7 番 富 田

受付番号第6号、質問議員7番、富田陽子です。

件名、「山北で子育てしてよかった！」を増やしたい。

全国的に少子化が加速する中、当町の出生数も近年は30人前後となっており、令和6年度の見込みでは10人程度と急速に減少している。また、小学校では5年以内に1クラスになる学年が出てくる可能性もあり、クラス替えがない弊害や登下校時の不安、部活動の選択肢が減るなど、心配の声も多い。

このような状況において、一人一人の子どもに寄り添うこと、選択肢が広がること、特色ある教育・保育を行うことで、「山北で子育てしてよかった！」という声が、子どもの増加につながると考え質問する。

1、アレルギーがあり給食を食べることができず、お弁当を持参する子どもがいるが、寄り添えるような対応は。

2、三保・清水地区以外にも、学校が遠く自力で通学できない子どもがいる。スクールバスの運行や通学費補助の地区を全域に広げるなどの対応は。

3、正職員の保育士の数が足りておらず、ゼロ歳児クラスでは年度途中での入園ができないケースがある。待遇改善や仕事量の見直しなど、保育士が働きやすい環境を整えること、やってみたい保育が山北にあることが重要と考えるが、対応は。

4、民間の認可外保育園やフリースクール等、子どもの育ちの場を広く選択できるよう、国の制度を活用し補助できる体制に取り組む考えは。

5、少人数だからこそ、一人一人の子どもに目が行き届く、「できる教育・保育」があると考え。地域の方や経験者の協力を得ながら、これまで以上に自然と子どもがつながる場を増やすような、特色ある教育・保育に取り組む考えは。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、富田陽子議員から、「山北で子育てしてよかった！」を増やしたい」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の、「アレルギーがあり給食を食べることができず、お弁当を持参する子どもがいるが、寄り添えるような対応は」についてであります。町では、入園、入学の際に子どもの食物アレルギーに関する基礎情報

を把握し、関係者全てが共有することにより事故の防止に努めており、これまでの取組を明文化したものとして、「山北町における食物アレルギー等対応方針」を令和6年3月に策定し、衛生的で安全な給食を目指しているところです。

また、近年では、児童・生徒の4.5%が何らかのアレルギーがあるとされており、多様化するアレルギー対応に加え、宗教・文化等を理由に禁忌とされている食物もあることから、原材料レベルまで使用・不使用を調べる必要があります。これまでに比べ格段にきめ細かい対応が求められています。

このことを踏まえ、より安心・安全なものにするため、対象となる食材を使用した品目を除いて提供する「除去食」の方式で給食を提供しています。

その上で、現在、幼稚園で1名、保育園で2名、小学校、中学校でそれぞれ1名の合計5名の家庭に理解をいただき、弁当持参の対応をお願いしているところです。

次に、2点目の、「三保・清水地区以外にも、学校が遠く自力で通学できない子どもがいる。スクールバスの運行や通学費補助の地区を全域に広げる等の対応は」についてであります。現在運行しているスクールバスについては、平成26年度の中学校の統合をはじめ、翌27年度の清水小・川村小の統合、令和3年度の三保小・川村小の統合などを背景に、当該地区の子どもたちの通学円滑化を図るために運行を開始したものです。

また、平成21年度から、通学に2キロメートル以上を要する三保、清水、高松及び小笠原地区の家庭に対し、通学補助金の交付による支援を行っており、現在、三保・清水地区は、スクールバス停まで2キロメートル以上の家庭が対象となっております。

現在、スクールバスや補助金の対象となっていない共和地区においても、共和小学校が平成22年度に閉校となっておりますが、共和地区で自ら通勤・通学手段の確保のためとした共和福祉バスが、平成16年度から試行運転、平成23年度から本格運行を開始されています。

今後は、これらの背景を踏まえ、通学補助金の対象となっていない地域について、ニーズの把握と対象地域拡充について見直しをしていきたいと考えております。

次に、3点目の、「正職員の保育士の数が足りておらず、ゼロ歳児クラスでは年度途中での入園ができないケースがある。待遇改善や仕事量の見直しなど、保育士が働きやすい環境を整えること、やってみたい保育が山北にあることが重要と考えるが、対応は」についてであります。まず、正規職員については、各クラス1名配置を基本としており、職員配置基準上、正規職員だけでは不足するクラスに対し、保育士資格を持つ会計年度任用職員を必要人数配置しております。

これは、4月の入園申込数に応じて配置するもので、基準の人数内であるクラスについては、年度途中であっても申込みに応じることができますが、年齢が低くなるに従って必要配置数が多くなり、5歳児では25人の子どもに対して職員が1人必要であるのに対し、ゼロ歳児は3人の子どもに対し職員が1人必要となることから、すぐに希望に応じられない場合もあります。

この場合、職員を新たに雇用して配置する必要がありますので、働きやすい環境の整備を進めるとともに、職員の定数を考慮しながら、保育士の確保に努めてまいります。

次に、4点目の、「民間の認可外保育園やフリースクール等、子どもの育ちの場を広く選択できるよう、国の制度を活用し補助できる体制に取り組む考えは」についてであります。民間の認可保育園については、国・県・市町村からの入園児数に対して保育委託費が支払われます。これは、法令に定められた設備・運営基準を満たした施設に対して認可があり、公費の対象とすることで保育の質の確保を図っているものです。

これに対して、基準を満たしていない施設をいわゆる認可外として区別していますが、多様な保育ニーズに応えるため、国が補助金を創設し、必ずしも認可基準を満たさずに補助金の交付対象となるケースも生まれてきました。

ただし、補助金の交付要件として一定の基準が定められ、国・県・市町村が足並みをそろえて補助を行う協調補助であることに加え、利用者に対し負担軽減として支払われますので、町内の事業者、利用者の実態を把握し、交付要件を満たすことが確認できれば、予算の範囲内で補助金について検討することを考えております。

次に、5点目の、「地域の方や経験者の協力を得ながら、これまで以上に

自然と子どもがつながる場を増やすような、特色ある教育・保育に取り組む考えは」についてであります。令和6年2月に策定された「0歳から15歳までの一貫教育・保育カリキュラム」では、山北に触れる、知る、学ぶ、広げるをテーマとして園・小・中学校の活動に取り入れております。

例えば、園での森林体験学習を挙げると、農業グループの協力を得ながら、園児たちがしいたけの菌打ちを通じて、地域の方と関わりながら、自然に触れる、育てる、観察する、食べるといった機会が生まれます。園外に出かけていき、それぞれの地域の方々とさつまいも掘りや梅もぎ、田んぼ遊びなどから、さらに食育や創作活動に発展することもあります。

今後も、このような園外活動の推進だけでなく、コミュニティスクールの運営や体験活動等を通じ、地域との協働や資源を大切にされた教育・保育を取り入れ、山北を学び、愛着を深めていくことにつなげていきたいと考えております。

議 長
7 番 富 田

富田陽子議員。

保護者の方からいただいた声がたくさんありまして、今回盛りだくさんになってしまいました。足早になってしまいますが、再質問させていただきます。

まず、1つ目の質問、アレルギーの対応について、現在は町内で5名の御家庭でお弁当の持参の対応をお願いしているという回答がありました。お子さんがアレルギーを持っていて、毎日お弁当とおやつを持参しなければならず困っているという園児の保護者の方から声をいただきましたので、今回質問にさせていただきました。

まず、町としては、山北町における食物アレルギー等対応方針に基づき、お弁当持参の対応をお願いしているというふうを考えられますけれども、弁当持参が大変だという保護者の方がいらっしゃるんですが、その辺はお弁当持参が除去食の方式で給食を提供するということには、なかなか至るのには難しいのでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

富田議員の御質問に対してお答えいたします。

まずは、アレルギーの問題については、一番私が懸念するのは命の問題に

関わるということですね。御承知の方もいらっしゃると思いますが、学校現場の中でも、そばアレルギーのお子さんであったり、それから、小麦粉系ですか、そちらのような形で過去に亡くなられたケース、残念ながらそういうケースがあります。そういうものも踏まえて、町のほうでもアレルギーに関する方針を出しながら、やはり安全を最優先にした中の食の提供、こういうものに入っているところを御理解まずいただきたいというふうに思います。

現在、先ほど町長が申しましたとおり、お弁当のほうの持参、こちらについては幼稚園、小・中学校合わせて5名いるわけですがけれども、現在アレルギーの対応をしているおさんは、それ以外にも、こども園で7名、向原保育園で5名、岸幼稚園で1名、小学校14名、中学校6名、計33名存在します。こういう子どもたちに対しても、お弁当以外の形の中で除去食、そういう対応をするわけですね。こういう一つ一つのものについての対応が、それぞれの給食室や調理師さん、そういう人たちの非常に細かな取組の中で、日々行われているということがあります。

そういう中で、現在の段階では、アレルギーの問題について、さらに考えてみますと、例えば、お肉が駄目であるとか、先ほども言いましたけども、おそばが駄目であるとか、いろいろなケースがありますけれども、一番やはりネックになってくるのは調味料系ですね。こちらになってきますと、もうそこまでの変化を対応していくとなると、たとえ数が少ないにしても、それが毎日に対応することになってきますので、取組の中では非常に現在の段階では厳しい状況があります。ただ、これについても全くできないというわけではなくて、やろうと思えばできるのかもしれませんが、それに至るまでの、やはり園や学校での給食の対応であるとか、また今後の考え方、方針も含めて検討していく必要があるかと思ひまして、現在の段階では、ちょっとお弁当で対応していただくのが現状だと思ひます。

以上です。

議 長 富田陽子議員。
7 番 富 田 食べ物アレルギーを持つ子どもというのは全国的に増えているというふう
に言われていますけれども、町内でも増加傾向にありますでしょうか。
議 長 こども教育課長。

こども教育課長 町内のアレルギーをお持ちのお子さんの状況なんですが、今年度につきましては、先ほど町長の答弁では、教育長の答弁のとおり、3園、小・中学校合わせて33ということになります。昨年度につきましては、こども園、保育園、幼稚園、小学校、中学校合わせて27名の方がアレルギーをお持ちということになっていきますので、若干の増という……。

議長 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 2020年に公表された調査では、2歳児の約10人に1人が食物アレルギーを持つと報告をされています。また、東京都が5年ごとに調査しているアレルギー疾患に関する調査では、この20年間で約2倍に増加しているということです。このような状況というのは全国的な増加、山北も含めまして増加傾向と見ていいと思います。

そして、令和6年度9月に発表された消費者庁の食物アレルギーの調査では、食べ物を摂取した後、何らかの反応があり医療機関に受診した年齢別の割合は、ゼロ歳から6歳児までが全体の74.4%を占めたという報告があります。これから分かるように、乳幼児のアレルギーの発生割合というのが非常に高いということが分かります。

先ほど、教育長から御答弁ありましたとおり、非常に気をつけなければいけない調理師さん、そして先生も含め、除去あるいは除去したけれども、その後に誤食というか誤って食べてしまうとか、やはり命に関わることなので、柔軟にというか、すぐ対応というのは難しいかと思えますけれども、やはりアレルギーを持つ子どもの保護者の方というのは、毎回の食事、そして外での食事にいつも気が抜けなとか、子どもが食べてくれるような献立に苦労されていると聞いています。園児の給食費が無償になり、何も問題なければ、これが大変ありがたい子育て支援なんですけれども、やっぱりアレルギーを持つ保護者にとっては、お弁当を毎日持参しなければいけないというのは、経済的にも精神的にも大変なことだと思います。

先ほど調味料の話ありましたが、除去をすとか、除去をする以前にアレルギー物質を含まない調味料を使うということで、例えば調理室がもう一つ必要とか、調理員さんの負担も減るといふふうに考えられるんですけれども、調味料を変更するというのは結構難しい課題なんですか。

議 長 こども教育課長。
こども教育課長 アレルギーの関係で、調味料とかだしとか添加物に含まれていることが結構多いんですけど、ただし、やはりいくら気をつけても全て取り除くということがなかなか難しいというふうに聞いておりまして、その点から、調味料等にアレルギー反応を起こすお子さんに対しましては、やはりお弁当の対応をしていただかなくてはいけないというふうな方針になっております。

議 長 富田陽子議員。
7 番 富 田 保護者の負担もそうなんですけれども、お弁当を毎日食べているお子さんにとっては、みんなと一緒に給食を食べられないということが、やはりちょっと寂しい思いをされているんじゃないかなというふうにも感じます。そこで、全ての調味料からエネルギー物質を取り除くというのは、毎日の献立の中で大変難しいかと思えますけれども、例えば提案ですけれども、月1日、アレルギー物質がない献立を作っただいて、その日だけは全員同じ給食を食べられるとか、まずは1日だけでもそういう日があると、子どもにとっても親御さんにとっても、ちょっとそこからスタートといいますか、ありがたいことかなと思うんですけれども、そこら辺はいかがでしょうか。

議 長 教育長。
教 育 長 子どもたちにとって、やはりお友達と一緒に給食を食べる、そういう場、お弁当以外に、できるだけ似たものを食べたいという思いは当然あると思いますし、今言ったように日々の状況ではとても難しいんですけれども、やはり、ただ中身によっては個別の献立になるかもしれませんけれども、そういう代替食を提供した場合に、食材であるとか、調理員の確保であるとか、様々な状況、あと先ほども出ましたけれども、調理場の別なものの設定がやっぱり必要になってくるかと思えます。

ただ、全てのものに対応することは非常に難しいかと思うんですけれども、やはり今言われたような、子どもたちの本当にそういう思いは、私自身も大切にしたいとは考えております。そういう中で、状況に応じてになりますけれども、可能な内容については今後考えていきたいと思えます。

以上です。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田

前向きに検討していただければと思います。

困っているという声をいただいた方ですけれども、この方は、小山市に職場がありまして、御殿場市か山北町どちらかに移住しようと迷われて、山北町を選ばれて移住をされた方です。なんですけれども、お弁当を持参しなければならぬということと仕事の両立というのが難しく、最初の2か月は仕事をお休みしてお弁当を作られていて、その後、仕事復帰されたんですけども、やっぱりお弁当作りが大変で、御殿場市では、公立の園がアレルギーに対応した給食を提供しているということで、御殿場市への転出を決められています。

山北町を選ばれたというのに転出されてしまうというのは大変残念なことではありますので、すぐに対応できるとは思いませんが、今後アレルギーの子どもたちが増えるということも踏まえまして、前向きに検討していただけたらと思います。

次に、2点目の質問に移ります。

福祉教育委員会でも調査しているスクールバスの件ですけれども、調査しておりますと、共和地区でも、これまでにお子さんが小学校へ入学されるときに、町へスクールバスの要望を出されていた方がいらっしやったり、あるいは共和の福祉バスに朝学校まで乗せてもらえないかと要望されていた方がいらっしやいます。

そのときは、町からは、福祉バスに町から補助が出ているため、スクールバスを出すことは難しいと言われたとのこと。共和の福祉バスは通学にも利用できますけれども、これはスクールバスではなくて、また地域が広過ぎて全ての地域をカバーできておりません。そのために、今現在も朝夕送り迎えをしている御家庭もありますし、朝は福祉バスに乗れても、下校時はお母さんが仕事の合間を縫って迎えに行っている御家庭もございます。このような状況を踏まえまして、共和地区にもスクールバスをぜひ走らせてもらえないかという声がありましたが、その辺はいかがでしょうか。

議 長

教育長。

教 育 長

スクールバスの件ですけれども、これについては、これまでの議会の中でもお話をさせていただいたかと思えます。

現行の中では、山北町の通学補助金制度、こういうものも含めて考えていきたいと思っていますけれども、現在、三保地区、清水地区のスクールバスについては、御承知のとおり三保小学校の閉校に伴う取組の中で、国からの補助金等も頂きながらの対応をしてくれております。そういうバスで今も動いているというのがありますし、共和地区については、スクールバスのその利用についても、今議員さん言われたとおり、福祉バスのほうも基本的には、補助金についての対応もしているかと思いますが、今言ったようになかなか厳しい状況があるということは理解しております。といいますのは、今後のところで、やはりバスの運行については非常に広域性の部分の中で、現状の中では難しいなというのが正直なところです。

ただ今後、清水、三保の子どもたちの中でも、通学補助、そういう対応の中で検討できればというふうに思っております。

以上です。

議 長
7 番 富 田
議 長
町 長

富田陽子議員。

やはり難しいという一番の理由は、もう財源的なものでしょうか。

町長。

スクールバスというのは、やはりそれなりの、例えば、何ていうんですか、町道であるとか何かの広さもありますし、特に共和に関しては、やはり道の問題と、それから今福祉バスをやっていただいておりますけども、そういったような関係でも含め、スクールバスをもしやるとすると、かなり小型のバスを配置しなければいけないということになりますんで、実際にそういったような検討に入ったときには、おそらく委託というようなことになるというふうに思いますんで、そういったようなことが可能かどうかは、実際に協議してみないと分かりませんが、かなり難しいというふうに私のほうでは思っております。

議 長
7 番 富 田

富田陽子議員。

今送り迎えをしている御家庭だけではなくて、子どもを持つ御家庭が、共和に移住をしてきたいということで準備されている御家庭も複数いらっしゃいますので、難しいかもしれないんですけども、そんな大型のバスに乗るほど子どもの数は多くありませんので、やはり検討していただけたらと思

ます。

そして、通学費補助のことですけれども、補助の具体的な内容は、ここに答弁にあります2キロメートル以上を要する三保、清水、高松及び小笠原地区の方に支援を行っているということですが、現状どのぐらい利用している方がいらっしゃるのでしょうか。

議 長 こども教育課長。

こども教育課長 令和5年度、6年度につきましては、通学補助金を支給している保護者はありません。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 いらっしゃるというのは、そういう対象者が申請をされていないということですか、それとも、この要件を満たしていないということでしょうか。

議 長 こども教育課長。

こども教育課長 まず、高松地区、大沢地区につきましては、そもそも学校に通っているお子さんがいないというところがあります。あと、三保と清水地区につきましては、御自宅からスクールバスのバス停までということで、かなり対象となる方が限定されますので、そういった関係でありません。

こちら、職員のほうが、対象となるお子さん、通っているお子さんの全ての距離を把握しておりますので、漏れはないというふうに認識しております。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 通学に2キロメートル以上要するというと、共和に住んでいる方は対象になるかと思うんですけども、ここは検討はしていただけますでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 これについては、共和地区のお子さんについても、今後はやはりスクールバスまでの距離が例えば2キロ以上でも、今言った通学の補助の対象ということが根拠として考えられるのであれば、今後ぜひ前向きに考えていきたいというふうに思います。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 前向きな検討をお願いしたいと思います。

この質問に関連して、当委員会でも調査しております、このスクールバスの件ですけれども、6月の一般質問にて府川議員が質問された件もちょっと

関連して伺いたいと思うんですけども、清水地区の岸幼稚園へ通う園児のスクールバスの同乗について、その後の進捗状況を伺います。

議 長 教育長。

教 育 長 これについては、町としても、やはり清水地区からのお子さんについては、今後実施の方向で検討したいというようなことで考えていきたいと思えます。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 それは来年度から、その子が、希望された方が同乗をできるということでしょうか。もしくは、清水地区の住んでいる方が対象になるといいますか、子ども園の、幼稚園籍の方でもオーケーなのか、岸幼稚園に限定されるのか、その辺はいかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 ただいまのことについては、範囲がそれからどんどん広がるということは、やはりまだ町としては考えておりません。今のところは、三保地区から岸幼稚園に通っている園児について、清水地区からも岸幼稚園に通うお子さんについて同乗を考えております、希望があれば。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 要望を出された御家庭を乗せていただけるか、あるいは引っ越しが先か、どちらが先かというふうに困っていらっしゃったので、この件について大変ありがたく思います。

これは推測ですけども、清水地区の中で岸幼稚園に通わせたいけれども迎えに行かなくてはいけないからといって諦めてしまっている方も、もしかしたらいらっしゃるかもしれませんので、清水地区で岸幼稚園に通わせたいというお子さんがいらっしゃるかどうかもぜひ情報収集をお願いしたいと思います。

それでは、3点目の質問に移ります。

この件は、この前のところで、県の定員には空きがありますが、保育士の数が足りず、ゼロ歳児を持つ保護者の方が、年度途中の入園ができず、こども園の一時利用も難しいということで困っているという声を聞き、質問させていただきます。

現在の正職員の保育士の数は足りているかの現状を伺います。

- 議 長 教育長。
- 教 育 長 ただいまの質問に対してお答えいたしますが、正職員の保育士が足りてなくて、ゼロ歳児クラスの入園途中の入園ができなかったというようなケースですけれども、現在、保育士の現状ですけれども、山北こども園及び向原保育園ともに、最低限必要となる正規職員の保育士の数は充当されております。
- ただ、現在育児休業であるとか、そういう関係の中で取得されている職員もいるために、実質には不足をしているということになります。その部分については、会計年度職員の対応で補っているところでございます。
- ただ、年度途中で見えられるとなると、これは、その時点での職員の確保ということに伴って非常にやっぱり厳しいのが現状です。
- 議 長 富田陽子議員。
- 7 番 富 田 今回の答弁ですと、会計年度任用職員の方で保育士の数は足りているという御回答だと思うんですけれども、そうであると、やっぱり一時保育の利用というのが今現在ちょっと難しいというのは、会計年度任用職員の方だけでも足りず、一時保育の利用もできないのではないかなと思うんですけれども、そこら辺はいかがでしょうか。
- 議 長 こども教育課長。
- こども教育課長 一時保育のお子さんを預かるにしても、通常に入園されている児童と同じ要件で考えておりますので、イコールという考え方で受入れをお断りしているちょっとケースはあるということになります。
- 議 長 富田陽子議員。
- 7 番 富 田 保育士さんは、子育てしている方がメインだと、子育てしている女性の方が多いと思いますので、育休とか産休というのが当たり前に出てきてしまうのかなというふうに考えられます。そういった中でも、うまく人員を確保していただけたらなと思うんですけども、保育士さんが足りないというのは山北だけに限らず、全国的にもやっぱり保育士さんが足りないということが挙げられると思います。町側としては、正職員といいますか、保育士さんが足りていない、なかなか集まらないという原因は何だと考えられていますでしょうか。
- 議 長 教育長。

教 育 長 保育士さんもそうなんですけど、学校の教職員のほうが今、全国的には不足は言われているかと思います。

まず、これも私自身が教員籍だった関係で、今課題があるんですけども、やっぱりブラック企業というような評判があれだけついてしまっている。確かに学校の先生方が本当に残業手当とかそういう様々な問題は、私たちが現場の中にいたときには、そういうことは度外視した中のあれでしたけども、やはり昨今、教育事情が変わってきた中、これは保育士にも同じことが言えるかと思いますが、昔の頃と比べて本当に様々な教育・保育課題が産出している。そういう中で、やはり、でも私どもは園のほうに出向いて行って、先生方の取組見ていましたけれども、本当に一人一人の園児に対して愛情を注ぎながら日々の保育をしている。それは本当に山北の園の先生方のことを誇りに思っております。

そのぐらいの方々ですけれども、やはり現状の中で取り組む仕事、いろいろなやりくりとして考えたときに、山北の場合には、魅力は私はあると考えておりますが、やっぱり全国的なものを考えていくと、諸事情、様々な状況の中で厳しい状況があるというのは認識しております。

以上です。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 今回質問するに当たり、町内外で複数の保育士さんにお話を伺いました。

まず、正職員で働かれている先生の中には、近隣自治体と比べて基本給が、山北は500円高かったから山北を選んだという方もいらっしゃいます。そこで、今後の正職員の保育士さんの給与を上げるというのはいかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 今、他県、よそのところよりも若干高いということで非常にほっとしたところなんですけれども、ただ、これについては、やはり町の財政事情、そういうものも含めながら検討しなきゃいけない。ただ、魅力のあるところでは、やはりサラリーの問題は非常に避けて通れない問題かと思いますが、やはりこれについては働き方改革、そういうものの様々な諸条件を加味しながら検討していきたいと思います。

以上です。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 先日というか10月に議会で、長野県南箕輪村に視察に行きました。

ここは、ほかの自治体に先駆けて子育て支援を行っていきまして、村なんですけれども、人口が約1万6,000人、そして高齢化率が24.3%、移住者が約7割で、村立以来、人口が増え続けているという、結構すごい村だったんですけれども、ここでも保育士不足がありまして、それを保育士さんの勤務年数や経験年数に応じて給料を上げることで解消したというふうに説明を受けました。財源が必要ということは十分承知しておりますけれども、やはり子育て支援というところで、御家庭に支援する子育て支援もありますけれども、保育士の給料を上げるということも子育て支援につながるのではないかと思いますけれども、そこら辺はいかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 これについても、周りの状況もやっぱり確認していかなきゃいけないと思います。やはりお金を上げるということは、例えば山北が上げたらとするならば、他町でもそれの上に行く、そういうお互いに上がる。それと、働く人間から見れば非常にありがたいことかと思いますが、やはりそこについては、先ほども申し上げたとおり、費用の部分と同時に、それももちろん検討はしていかなきゃいけないところだと思いますけれども、例えば園の先生方の話を聞くと、やはり早番であるとか遅番であるとか、そういう仕事体系の部分でも非常に難しい部分を感じているところもありますけれども、やはりその辺りについては、早番遅番勤務はやむを得ないとは思いますが、例えば職員の事情によって考慮してシフトを組むであるとか、やはり会計年度職員の方々を配置しながらやりくりをしながら、少しでも保育者、職員の方々の負担を軽減していくということで対応していきたいと思っております。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 保育士さんに話を聞いた中で、やっぱり私も課題と感じた点としては、働く時間と仕事量ということだと思います。保育園、こども園は、朝7時半から夕方6時半まで開園しているということで、かつ土曜日でも開園していますので、正職員の方はやっぱりシフト勤務で働く時間が日によって違っていたり、あと土曜日でも出勤となると、やはり子育てをしている方は、なかなか正

職員で働くことが難しいと言われていました。

また、先ほどブラックとおっしゃっていましたが、保育以外の仕事量というのかなり多くて、子どもたちが帰ってから書類を書いたり、翌日の準備をしたりと、勤務時間残って仕事されているということで、やはり子どもがいると遅くまで働くことができないというのが、正職員で保育士さんが働くことが難しいというのが一つ理由かなというふうに思います。やっぱり子育て中の保育士さんでも働きやすい環境づくりが重要ではないかなと思います。

そこで、正職員の保育士さんをカバーしてくださるのが会計年度任用職員の方だと思うんですけども、朝早い時間ですとか遅い時間に対して会計年度任用職員の方が気持ちよくというか、働きやすく仕事していただけるように時間外勤務をつけていただくと、正職員の方の負担も減らせるのではないかと考えますけれども、ここら辺はいかがでしょうか。

議 長

教育長。

教 育 長

会計年度職員の部分についても、これも先ほどから出ておりますけれども、やはり予算に絡んでくることの中で検討は前向きにしたいとは思いますが、これについてはやはり財政事情も含めて、全体的なバランスの中で考えていきたいと思います。

議 長

富田陽子議員。

7 番 富 田

ぜひ前向きに、手厚くお願いできたらと思います。

最後に、この質問で、募集するときの工夫も重要ではないかというふうに考えました。

山北を選ばなかった方の理由に、幼稚園も保育園もこども園も3園ありまして、採用されるとどこに配属されるか分からないから選ばなかったという方がちょっといらっしゃいました。

近隣では、幼稚園だけとかこども園だけという町もある中で、山北は3園もあるという独自性があると思います。いろいろな園を経験できるというメリットと選べないデメリットというのがあると考えますので、採用時に、幼稚園で働きたいとか、保育園で働きたいという選択ができれば、より選びやすいのかなというふうにも考えました。また、山北のこの保育方針だったら、

ぜひ山北で働きたいという方もいらっしゃると思うんですね。なので、募集に、ただ保育士募集というだけではなく、こういう方針の保育をやっているので、ぜひここで働きませんかという募集の工夫があると思うんですけども、そこら辺もいかがでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。
冒頭、少子化の中で山北町の教育・保育ということの中でメリット、やっぱり輝くものを見たいというのが私自身考えております。そういう意味で、零歳から15歳までの一貫教育・保育、これを本当に他町に先駆けて山北町のオリジナルな教育方針、保育方針だというふうに考えております。

そういう中で、山北町には御承知のとおり、保育園、幼稚園、こども園と3園あるわけですけれども、やはりそれぞれのところで働きたいという方のメリットあると同時に、一つの園を希望されるということのデメリットもあるわけですけれども、これにつきましては、逆に言えば山北町の特色という部分で、町職員についてはそれぞれの勤務されるところがあるかもしれませんが、やはりどの園でも勤務できるという可能性はあるというふうに認識しております。これが、今議員さん言われたように、今後の応募の妨げになる部分もあるかもしれませんが、やはり町の中では、限られた人員の中で保育・教育を実施していかなければいけない。そういう中で、3園での人事異動、こういうものが理解した上で応募していただきたいというふうに考えております。

逆に言えば、一つの園の中で、職員間の例えば人間関係であるとか様々な中で、小・中学校においては広域人事ということの中で異動というようなことができるわけですが、これが一つの園だけになると、その中だけの人間関係という部分もあります。逆に言えば、町内の中でそういうふうに園の中で異動ができるというものは、私はメリットの部分にもなるかと思えますし、園の、要するに保育の技術であるとか、いろんな先生から学ぶということも考えられるかと思えます。

そういう中で、逆に私自身は、山北町には3園の中でということはメリットというふうには考えておりますが、そういう理解のある保育士さんのほうにぜひ来ていただきたいというふうには思います。

以上です。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 4つ目の質問に移ります。

次の質問は、町内に保育料無償化の対象になっていない民間の保育施設があり、そこへ通う保護者の方から保育料の補助はないのかという声がありまして、このような質問させていただきましたが、前向きに検討していただけるという御回答がありましたので、前向きに検討していただきたいと思いません。感謝申し上げます。

最後に、5点目の質問ですけれども、山北で子育てしてよかったという声を増やすことで、やっぱりもう一人産みたいとか、移住したいと思う方を増やしたくて、ちょっと提案をさせていただきたいなと思いました。

まず1つ目ですけれども、山梨県が先日、公立小学校の全学年で25人学級を導入するということを発表しました。現在は1から4年生で行っているということですが、来年度から順次5・6年生に広げるということでした。

子どもへのメリットとしては、教員と児童のコミュニケーションの充実を図ることができるとか、個々の児童の指導助言に時間をかけられる。そして、教員のメリットとしては、学級担任の実務的な作業が減る、教員の負担軽減につながるというメリットが挙げられました。

出生数が30人前後と山北町減っていますので、町長、以前から小学校は最低でも2クラスとおっしゃっていました。出生数が30人前後でも2クラスが維持できるように、山北でも25人学級というのを取り入れてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 当然そういうような、今急にうんと子どもの数が少なくなってますんで、十何人というようなことを考えると、将来かなり移住してもらったりなんかしないと2クラスは無理だというふうに思いますんで、そういう意味での25人学級というのも当然検討しなければいけない課題だろうというふうに思っております。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 例えば、開成町で不登校だった子が、小田原市の根府川の少人数の学校に

転校したら通えるようになって、お母さんが働けるようになったとか、そういう声も聞いています。やはり少人数であるということが、周りの近隣で住んでいる親御さんにとってはプラスになったりするのではないかと思います。

あと、もう一つの提案ですが、特色ある教育・保育をということで、山北では、答弁にありますとおり、ゼロ歳から15歳までの一貫教育・保育カリキュラム、山北に触れる、知る、学ぶ、広げるという活動、大変私もいろいろな場面で見学させていただいていますけれども、素晴らしい取組だと思います。

例えば、5年生と年長さんの園児の交流というのが、小学校入ってから顔の見える関係になったりですとか、先日、山北中学校で行われた政治的教養を育む教育というのでは、山北の魅力や課題を調べて、どうしたら山北町をよりよい町にできるかということパソコン使って発表していて、本当に山北高校のプレゼンを上回るぐらいの素晴らしい発表だったと思います。やはりそういったやられている教育をもっと町内向けではなく、町外に向けてアピールしていくことが、今後の子どもの数を増やすのに重要ではないかと思っています。

例えば、私立の学校では、学校の方針とか教育理念というのを大きく掲げて、そこで生徒を募集していると思うんですけども、公立の学校でも町外に向けて、町ではこういうふうに入力していますよということをもっとアピールしていくべきではないかなと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 今富田議員言われたとおり、山北の教育の保育の魅力、こういうものを私どもも参考にしながら発信し、あ、山北っていいところだなというふうに思ってもらおう。まず、そのためには、子どもたちを含めて山北に住んでいる方々が、山北のよさを知っていただき、魅力を、逆に言えば、そういうところからも発信していただきながら広めていきたいというふうに考えております。

以上です。

議 長 富田陽子議員。

7 番 富 田 さらに少人数だから手厚くできることというのが増えていくかと思っています。

そういったことが、長期的に見れば、すぐには子どもの数回復しないかもしれませんが、長い目で見れば、子どもの数が増えていく要因になるのではないかなと思います。

最後に、先ほど言いました南箕輪村は、移住・定住に力を入れていなかったんですけど、今住んでいる町民の子育て支援に力を入れたら子育てしやすさというのが口コミで広がって、結果的に移住者がたくさん増えて、今現在7割で、人口ピラミッドとしても30代から50代が一番多いという結果になっていました。やはりこういった取組を教育・保育に対しての子育て支援という形でしていただけると、やはり子どもの数、ぜひ保護者としても増やしてほしいなと思っていますので、ここをぜひ検討していただきたいと思います。

以上です。

議
町

長
長

町長。

ありがとうございます。私も、外部のところの関係あるよう、例えば品川区さんとか、あるいは川崎市さんとか、そういったところの人たちの、子どもたちを山北町に、何というか、例えば、特に今問題になっているのが不登校の子どもたちがかなりいますので、そういった子どもたちを、森の学校とかそういうもので来ていただいて、交流をできるようにすれば、また外部からそういった山北のよさを知っていただくいいチャンスになるんじゃないかと思いますんで、そういったことを少ししっかりと前へ進めてまいりたいというふうに考えております。